



# 関西大学臨床心理士会 10周年記念誌

～10年の歩みと未来予想図～



THINK × ACT  
関西大学  
KANSAI UNIVERSITY

# 目次

## I 歴代会長からのご挨拶

「関西大学臨床心理士会 10周年を記念して」	会長 足利 学	.....2
「関西大学臨床心理士会 10周年記念誌によせて」	第2期会長 小海宏之	.....3
「関西大学臨床心理士会 10周年記念誌によせて」	第3期会長 二宮ひとみ	.....4

## II 10周年記念特集

「源流から半世紀後の心理士会の現状と課題」	葉賀 弘	.....6
「10周年記念総会研修会が開催されました」	.....8	
・午前 特別講演「心理アセスメントの未来予想図II」		
	参加記 足利 学	
・午後 研修会 「10周年記念総会研修会事例検討会」		
	事例提供者 星 光子	
	指定討論者 中野明子	
	若林暁子	
	参加記 川端康雄	

III 本会の歴史と歩み	.....13
会員数の推移	
歴代役員一覧	
研修の概要	

IV あの人は今！	.....19
-----------	---------

編集後記	.....36
------	---------



# 歴代会長からのご挨拶

# 関西大学臨床心理士会 10周年を記念して

会長 足利 学

関西大学臨床心理士会 10周年を記念して、会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

平成 19 年 7 月 21 日（土）に関大会館 4 階ホールにて、関西大学臨床心理士会が産声をあげました。当日は関大専務理事、関大副学長、関大校友会組織部長を来賓にお迎えし、盛大に設立総会が開催されました。10 年ひと昔といわれますが、これも歴代会長をはじめ、幹事の皆さま、なによりも本会に多大なるご支援とご協力いただきました会員の皆さまのお陰とっております。この場をお借りして、お礼と感謝を申し上げます。

さて、本会の目的は母校関西大学の隆盛をはかり、会員相互の交流を深めることであり、これまで年 1 回の総会研修会、幹事主催の研修会を継続的に実施して参りました。会員数も年々増加の傾向にあり、300 名を超える大所帯になっています。また近年の総会研修会の参加者数は約 120 名で推移しておりまして、毎回会員の皆さまの勉強熱心な姿に感銘を受けています。昨年 9 月には、わが国で初めての心理職の国家資格法が議員立法により成立し、平成 30 年までに第 1 回公認心理師国家試験が実施される予定になっております。公認心理師が臨床心理士にどのような影響を与え、どのように対処するかについて、本会の次の 10 年間の大きな課題になると考えております。具体的には臨床心理士の社会における存在意義、関大臨床心理士会としての方向性を決定することなどが喫緊のテーマになります。この点につきましては、会員の皆さまのお知恵もいただきながら、微力ではございますが運営に携わる所存です。

最後になりましたが、本会設立当初から多大なるご支援いただいております関西大学臨床心理専門職大学院の教職員の皆さまにお礼と感謝を申し上げます。

# 関西大学臨床心理士会 10周年記念誌によせて

## 第2期会長 小海 宏之

関西大学臨床心理士会の創設10周年、誠におめでとうございます。本会は、現在300名を超える会員数となり、教育・研究・臨床の三本柱を担う会として順調に発展を遂げてきております。そこで、本会の歴史を少しだけ振り返り、今後の課題を考えてみたいと思います（注：以下、肩書や所属はいずれも当時のものです）。

関西大学臨床心理士会は、平成19年7月21日に設立されました。設立総会には、各地でご活躍されていた61名の先生方のご参加をいただき、また、上原洋允先生（関西大学専務理事）、越智光一先生（関西大学副学長）、山田拓幸様（関西大学校友会組織部長）、畑勝美様（関西大学校友会事務局次長）を来賓としてお招きし、初代の会長に梶谷健二先生（大阪府臨床心理士会会長）、副会長に寺嶋繁典先生（関西大学）と石田陽彦先生（関西大学非常勤講師）、幹事長に小海宏之（藍野病院）が選出され、同年9月1日現在の会員数は134名で組織されました。

その後、平成21年度から第2期会長として小海宏之（花園大学）が務めさせていただきましたが、公私ともに多忙になったが故に会員の皆様には申し訳ありませんでしたが、任期途中で辞職させていただきました。そして、平成22年度から第3期会長として二宮ひとみ先生（大阪医科大学）の体制となり、平成25年度から第4期会長として足利学先生（藍野大学）に引き継がれ、現在に至っております。その間、本会の創設以来、長年にわたりご指導いただいた梶谷健二初代会長が、平成27年2月にご逝去されました。改めてここに謹んで、本会の発展にご尽力いただいた梶谷健二先生のご冥福を心からお祈りいたします。

さて、本会はこのように順調に発展してきましたが、ご存じのように新たな心理職の国家資格として公認心理師法が平成27年9月に公布されました。また、その指定試験機関として一般財団法人日本心理研修センターが平成28年4月に指定され、平成30年に第1回目の国家試験を行い、大学・大学院がこの法律に基づく教育を始めるのは、平成30年4月からと想定されています。当然、われわれ臨床心理士は新たな国家資格である公認心理師も取得して業務にあたるのが予想されるわけですが、今後の公認心理師に求められることとしては、①スペシャリストである前にジェネラリストとしてのセンスを養うこと、②心理アセスメント・心理療法、いずれも根拠をしっかりと示すこと、③チームワークとして協働するバランス感覚を養うこと、④法・行政機能の中の仕事である自覚をもつこと、⑤公認心理師としての新たなスタンダードモデルを作ること、などがあると思います。

このような新たな課題に立ち向かっていくためにも本会の果たす役割は、非常に大きなものがあると期待しておりますので、今後とも引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 関西大学臨床心理士会 10周年記念誌によせて

## 第3期会長 二宮ひとみ

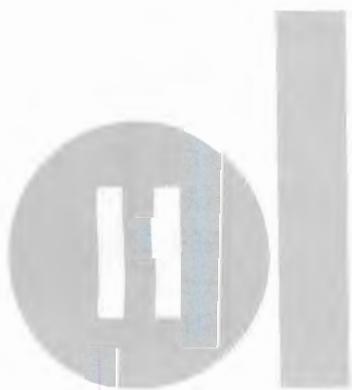
関西大学臨床心理士会設立10周年を迎え、私の職業生活10年と合わせて振り返りたい。10年前の私はいつも仕事に追われているだけで、新しいことへの挑戦に全く興味がなく、決まったことを決まった形で片付けるような仕事ぶりだった。残念ながら職業生活についてはそれぐらいのことしか思い出せない。関西大学臨床心理士会が創設されたときも、どこか他人事のように感じていたように思う。3年後に第1期会長梶谷先生から第2期会長小海先生にバトンが渡り、私は確か幹事長に任命されたが、当初は小海先生からの指示待ち状態での活動していたため、情けないことにこの頃の記憶も曖昧である。

その曖昧な記憶が鮮明になってくるのは小海会長体制が軌道に乗り始めた頃である。当時の会の懸案事項は臨床心理専門職大学院の院生向けに開催されていた研修会を当会の研修会として位置付けて運営できないか、ということであった。関係の先生方に言われるままに専門職大学院の先生方との話し合いを繰り返し、お力添えをいただく中で現在の院生研修会の基本の形が出来上がったのだが、そのような折に、大変ご多忙になられた小海先生が任期途中で会長を退任されるという「ハプニング」に見舞われ、私が第3期会長を拝命することになった。急な会長選任に非常に戸惑ったが、いつの間にか私はオファーがあればどのようなことでも引き受けるという便利屋スタイルに変わっていたこともあり、深く考えずに会長として走り出した。深く考えると会長職は荷が重すぎて逃げ出してしまうようで、とにかく考えずに前進しなければならなかったのだ。

3年任期の間、会を預かる責任として会員にどのように利益を還元すべきか、どうすれば会員に喜んでいただけるのか、何が正しいのか、何が間違っているのか…堂々巡りになることもあって、考え込んでしまっていたように記憶している。しかし執行部として副会長の足利先生、岡村先生、幹事長の香川先生と共に会の運営の大きな方向性を話し合ったり、また専門職大学院の先生方とも折に触れてご意見を賜ったり、幹事や会員の方々からご意見をいただいたりしたことで、いつも考えが整理され、勇気づけられ、非常に有り難かった。

幹事長や会長としての経験は、後に職場、学会・職能団体での活動に生かすこととなり、月並みな表現になるが、今の私の職業生活にとっての貴重な財産である。関西大学臨床心理士会の皆様へは言葉にならないぐらい感謝している。

現在は家庭の事情で東京に転居して3年目になった。大学院修了後から当たり前のように母校の先輩後輩とともに仕事をしてきたが、東京に来て初めて母校という共通項のない環境で働き始め、なんとなく寂しさを覚え、年1回の総会出席を心待ちにしている今日この頃である。今年度からは国立がん研究センター中央病院の非常勤職員として勤務する機会を与えられたので、更に経験を積んで、関西大学臨床心理士会にこれまでとは違った形で貢献したいと思う。



# 10周年記念特集

# 源流から半世紀後の心理士会の現状と課題

葉賀 弘

関西大学臨床心理士会が設立されて10周年を迎え、大学を支える校友会の一下部組織であり、年々会員数も増え今では押しも押されぬ存在にまで発展し、卒業生で臨床心理士を志し臨床に携わる者には心強い拠り所となっている。

1960年代からわが国の高度経済成長による科学技術の急速な進歩により、社員が適応困難に陥ったり対人関係の希薄さからストレスや関連疾患、家庭内では暴力、引きこもりや不登校など心の問題が顕在化してきた。これらの対処法のひとつとして心理士の活用が必要不可欠となり、このことと相まって心理士の社会的認知度も次第に高まってきた。

60年代と言えば私が心理職に就き仕事を始めた時期と重なり、以来心理学諸団体の過去50年の発展の後を追うような生き様であった。

50数年前の記憶と言えば不確かな部分も多々あると思うが、記憶を手繰り寄せながら心理士会の源流を訪ね発展のあとを概観し、将来に向けて臨床心理士が責任のある役割と関西大学臨床心理士会が果たすべき役割について私見を述べたい。

大学卒業を間際に控え心理学専攻生の就職先を日本心理学会名簿より調べると、国公立大学・短大の教育職がトップで、国家公務員では少年鑑別所の技官、家庭裁判所の調査官、地方公務員では児童相談所・福祉施設の判定員や少年補導所の技師などが多数を占めていた。1950年代には、民間病院での採用の普及はまだ少なかった。当時は心理士に係わる職業や職種は極めて限定された状況にあったことが学会名簿から伺い知ることができる。卒後教育制度もなく専門書や資料など入手困難であったころ、職業的に心理学と深く係わるもの同士が集まって月1・2回程度の研究会が大学研究室、職域や地域単位に広まりつつあった。私が所属していた研究会は、県下でただ一つの研究会で10人程度の会員が前の月に決めた研究課題について各自が発表する形式で、時には先輩からロジャースのカウンセリング理論やクロッパーのロールシャッハ・テストに関する文献の紹介を受けることもあった。ロジャースやクロッパーの理論や技法は凄く新鮮で心の奥深くに響きわたり、強い衝撃を受け一時期は虜の状態にあったことを思い出す。職業的に歴史の浅い心理士には目標とするモデルに乏しく、新卒者は往々に道に迷うこともあり、その時の先輩たちの助言や指導には光明をもたらすようで、その感動は忘れがたく、現在の私を支えてくれているようでもある。今も大津の地で細々と研究会を続けられているのは、その時の感動が残っているからなのだろう。各地域で研究会が立ち上がったころ、近畿地区の心理学関係者が一堂に会して、関係各方面に発信できる協会を設立しようと100人程が京大の楽友会館で話し合いをもち、その日のうちに関西心理学者協会が立ちあがった。このような早業が可能なのは関西には関東にはない集団的な纏りの良さがあり、他に誇れる風土があるからであろう。同協会が掲げた目標のひとつに心理士の社会地位の向上があり、将来的には大学院修了の学歴を修め、医師と互角に渡り合える学識・経験を保持することであった。この考えは後の日本臨床心理士会にも継承されている。関西心理学者協会は日本臨床心理士会の設立によって、ほどなく幕を閉じることとなった。

臨床心理士資格認定協会が資格認定業務をはじめた1988年当初は、認定されてもその効

用に疑問を抱き申請には二の足を踏むものが少なからず見られた。資格認定協会より大学に示された指定校の主たる要件とは、一定数以上の有資格教員の確保と院生用の実習施設（相談室）を設けることであった。関西大学ではこれらの要件を満たすために、社会学部と文学部の両方にあった臨床心理学系を統合する案には多少の抵抗があって難産であったが、これを成し遂げ現在の大学院体制が完成したのである。同時に、院生の臨床実習を兼ねた校内向けの心理相談室と校外向けの臨床心理相談室が相前後して設置され、教育施設は一段と充実した内容となった。文学部と社会学部には古くからそれぞれ臨床心理学の研究会があって、社会学部では高橋雅春先生と寺嶋繁典先生率いるグループと、文学部では葉賀を中心としたグループがあり、心理相談室の運営で教員の交流が活発化したのを機会に両研究会は統合されたが、関西大学臨床心理士会の設立によって研究会は程無く消滅することになる。

臨床心理学大学院修了者が増え臨床心理士が急増した2007年ごろに、臨床心理士の先輩であり校友でもあり、先般お亡くなりになった梶谷健二先生と小海宏之先生のご尽力により、関西大学臨床心理士会が創設され、同年7月21日に関大会館において設立総会が開催されたことは心理士ニュースレター創刊号に詳述されている。1989年に日本臨床心理士会ができ、初代会長に河合隼雄先生が就任され、早々より心理士の国家資格に関する立法に向けて会長自ら先頭に立ち、会の理事も総動員となって手分けしながら精力的に関係省庁や国会議員らと折衝に当たられたことは心理士会誌上に詳しく報告されており大いに期待を寄せていた。2015年9月の参議本会議において全会一致で成立した公認心理師法は、我々が悲願50年ずっと要求し続けてきた内容とは余りにも懸け離れたものであった。公認心理師が臨床心理士と異なる点は、心理学系の大卒者であれば実験系、社会系や教育系などの別は問わず公認心理師として共通の汎用性をもつ国家資格なのである。本法案成立には正直言って失望の念を隠せなかった。しかし、我々がいま冷静に考えねばならぬことは、臨床心理士に社会的期待が高まりつつあるなか、同法を土台にして活躍の場を広げ、市民から身近な存在として信頼され正當に評価されることに努力を積み重ねるべき絶好の機会と捉えるべきではないか。

関西大学臨床心理士会が公認心理師法の成立と関連して、会員とどう向き合っていくかについて考えたい。会の目的は会員相互の交誼、情報の交換あるいは教養を高める場であるが、公認心理師の誕生により、卒業生が関西大学をHeimatと感じている以上、卒後教育の一端を背負う必要があるのではないか。校友としての臨床心理士はもてる学識・経験を活用して後輩である公認心理師を指導し、臨床心理士の水準にまで向上させるシステムができないものかと思っている。

関西大学臨床心理士会が今後20周年、30周年を迎えられるよう発展されんことを切に祈って止まない。

# 10周年記念総会研修会が開催されました



日時：平成 28 年 5 月 22 日（日）9：30～16：00  
場所：関西大学尚文館 1 階マルチメディア AV 大教室

## 午前 特別講演

### 「アセスメントの未来予想図Ⅱ」

講師：寺嶋繁典（関西大学大学院心理学研究科）

司会：足利 学（藍野大学）

## 午後 事例検討

### 「アセスメントとケースフォーミュレーション」

～不適応を呈する ASD 傾向のある中学生のケースについて～

事例提供者：星 光子（阪南病院）

指定討論者：中野明子（藍野病院）

若林暁子（大阪医科大学附属病院）

足利 学（藍野大学）

司会：香川 香（関西大学大学院心理学研究科）

## 午前 特別講演

# 「心理アセスメントの未来予想図Ⅱ」参加記

会長 足利学

本会 10 周年を記念して寺嶋繁典先生（関西大学大学院心理学研究科）に「心理アセスメントの未来予想図Ⅱ」と題した特別講演をお願いしました。

まず、アセスメントの歴史について、20 世紀初頭はパーソナリティよりも、むしろ適性・学力などの測定から始まったことを説明されました。その後パーソナリティの個人差に関する測定や研究に引き継がれ、様々な特性を測定する尺度（measurement）や検査（test）の開発に至ったようです。1940 年には、現在でも臨床で活用されている MMPI が開発され、質問紙法の反応歪曲の問題を解決することができました。他方、ロールシャッハ・テストは臨床場面で頻繁に使用される投影法として発展しましたが、1960 年代に入ってから、科学的根拠の乏しさへの批判が相次ぎ、ロールシャッハ・テストの研究自体が減少しました。22%の回答者がロールシャッハ・テストのスコアリングを廃止したとのエクスナーの調査結果を紹介され、同テストの科学的根拠を担保するためにも、スコアリングが重要であることを強調されました。

後半では、近年の心理テストに関する研究の現状について話題にされました。尺度構成に関する研究は盛んに行われているが、ロールシャッハ・テスト以外の投映法の研究はあまりみられず、投映法を臨床で活用し続けるためには、心理測定の方法論の他にも、工学・生理学・医学等の手法を駆使した新たな研究方法が将来に向かって展開することの重要性を強調されました。

先生のご講演をお聞きして、近年の心理テストの研究は、科学的なアプローチ（数量化）が主流になってはいるものの、質的な解釈も必要とされる投映法では地道な研究と日々の訓練が必要であることを再確認させていただきました。臨床現場でロールシャッハ・テスト等の投映法を活用しているもの一人として、テストを実施する際には、質的な解釈に偏り過ぎることのないよう、数量的な裏付けも常に意識しながら、研究・臨床を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、紙面をお借りしまして寺嶋先生にお礼と感謝を申し上げます。



## 午後 事例検討会

### 「アセスメントとケースフォーミュレーション

### ～不適応を呈する ASD 傾向のある中学生のケースについて～

#### 「10周年記念大会事例検討会を振り返って」

阪南病院 星 光子（事例提供者）

午後の事例検討会は「アセスメントとケースフォーミュレーション～不適応を呈する ASD 傾向のある中学生のケースについて～」というタイトルで開催され、私は事例提供者として、心理検査だけでなく入院中にも児童精神科専門病棟で関わった事例を発表させていただきました。その中で、事例を改めてまとめる段階、指定討論や司会の先生方、研修会のご担当の先生方と打ち合わせを重ね事例検討会を作り上げていく段階、そして当日、フロアの先生方からのご意見やご指導、指定討論の先生方からのコメントをいただく段階と、様々なプロセスの中で事例の理解を深めることができ、多くのことを学ばせていただきました。特に医療だけではなく教育、福祉領域でのご経験のある先生からの意見を伺うことで、介入方法がワンパターンになりがちであることに気づき、幅広い視点で事例を捉えることの必要性を実感しました。また普段の業務では、心理検査を用いたアセスメントを求められることが多いのですが、単に心理検査の報告書を書くだけではなく、その後の介入やケースフォーミュレーションと、先を見通したアセスメントをすることが重要であることを感じ、私が働く現場でもそのようなアセスメントの力が求められていると思いました。



最後にりましたが、このような貴重な機会を与えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

## 藍野病院 中野明子（指定討論者）



指定討論者のお話をいただいた時には、身に余る役割に恐縮したのと同時に「もうそんな歳か…」と月日の経つ早さを感じました。同期の若林暁子先生、そして会長であり大先輩である足利学先生とご一緒できたことは、とても心強いことでした。

今回、星光子先生（阪南病院）にご提示いただいたのは「不適応を呈する ASD 傾向のある中学生」でした。私が勤務する病院では小児発達外来も開設されているものの、知能検査や面接の機会は少なく、星先生の事例は詳細なアセスメントに加えて、医師を中心としたチームでご本人やご家族を支えておられる大変興味深いものでした。

今回の事例検討会を通じて感じたことは、第一に当然のことですがアセスメントやケースフォーミュレーションの大切さ。これは心理士の専門分野であり、日々の研鑽で知識や技術を高めていく部分であると思います。そして、他の職種と連携をとるうえでは、遠慮しすぎず、主張しすぎず、心理士としての意見を相手に伝わる言葉で説明できるような高いコミュニケーション力が求められます。また、介入案を知識としてだけ持っておくのではなく、活かせるよう行動に移すことも重要です。「本児にはアンガーマネジメントが必要」「母親にはペアレントトレーニングを」となった時に、自分がそれを行えるのか、もし技量・環境を含めて自分では難しい場合には、どこに、誰に、つなぐことができるのか、困ったときに相談できるようなネットワーク（人脈）を築いておくことも大切です。

このように知識・技術に加えて、行動力・人脈もまた心理士としての幅を広げる大きな武器になると感じています。幸い、関西大学臨床心理士会に所属している私たちには、同期の横のつながりに加えて、先輩後輩の縦のつながりがあります。活用しないと！研修会を終えて、今後も自己研鑽を積んでいこうという背筋の伸びる思いと、もっと色々な先生方とお話をしたくなりました。

最後になりましたが、このような貴重な学びの機会を与えていただきましたことを、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

## 大阪医科大学附属病院 若林暁子（指定討論者）

今回の事例検討会では、指定討論の立場から、医療現場での家族への支援、学校や地域との連携の実際についてお話させていただきました。現在の職場では、精神科だけでなく、緩和ケアや糖尿病、NICU の領域をはじめ多岐に渡る診療科から相談を受けることが多く、院内外が多職種で連携しながら支援しています。臨床心理士に求められる役割はさまざまありますが、中でも今回のテーマである「アセスメントとケースフォーミュレーション」の要素は非常に重要であると感じています。

今回の事例では、星先生が早期のうちに見立てと支援の方向性を多職種で共有し、両親への心理教育やスタッフへのコンサルテーションを継続的に行い、粘り強く関わっておられました。一筋縄にいかないことが多くある中で、信頼関係を基盤としてアセスメントと

ケースフォーミュレーションを繰り返し、目標を適宜修正したり共有したりしながら支援しておられる様子は、非常に勉強になりました。

今後、心理臨床の場では、異なる領域間や職種間で協働していく機会が一層増えていくことと思います。私たちの職場でも多職種合同カンファレンスの開催が日常的になってきました。日々、自身の発言の重みを感じ、ケース全体を見立てる能力をもっと磨いていかなければと痛感しています。今回の事例検討会を通じて、自己の専門性を高めていくことはもちろんのこと、その専門的知識や技法をいかに応用し、個別性をふまえた支援に落とし込んでいくかが重要であると再認識しました。多くの学びと気づきを得ることができ、感謝しております。これからも関西大学臨床心理士会の先生方にご指導いただきながら、自己研鑽に努めていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



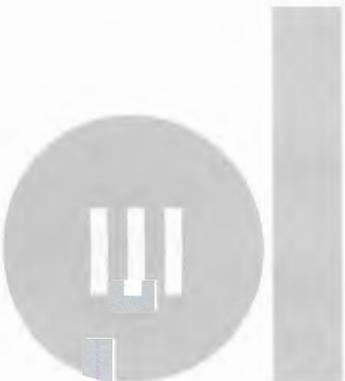
## 事例検討会に参加して（参加記）

大阪医科大学附属病院 川端康雄

近年、医療領域では科学的実証主義の影響が大きくなり、客観性や再現性に乏しいとされるアセスメントは少しずつ批判に晒されるようになってきました。アセスメントや介入の実証研究（共通性）が重視される一方で、臨床家からは事例性を重視するケースフォーミュレーションやナラティブ（個別性）が強調されるようになりました。評価が科学的になるほど個別ニーズの把握は難しくなり、事例の個別性が強調されるほど共通性が得られにくくなるというジレンマを有していることから、共通性と個別性はいわばトレードオフの関係にあります。

そのような趨勢のなかで、私たち臨床家にとって今回のテーマは興味深いトピックで、たいへん示唆に富む研修内容でした。当日は星光子先生から事例提供があり、グループ・ディスカッションが行われました。各グループの発表後、シンポジストの先生方からそれぞれのお立場からのコメントを頂き、実践的な見立てを参加者間で共有することができました。当日の事例は単一の症状や問題のみではなく、複数の症状や問題行動を有している事例でした。また、環境因も大きく関与することから、マニュアルベースのみでの対応では介入が難渋しやすいことを事例からも学ぶことができました。

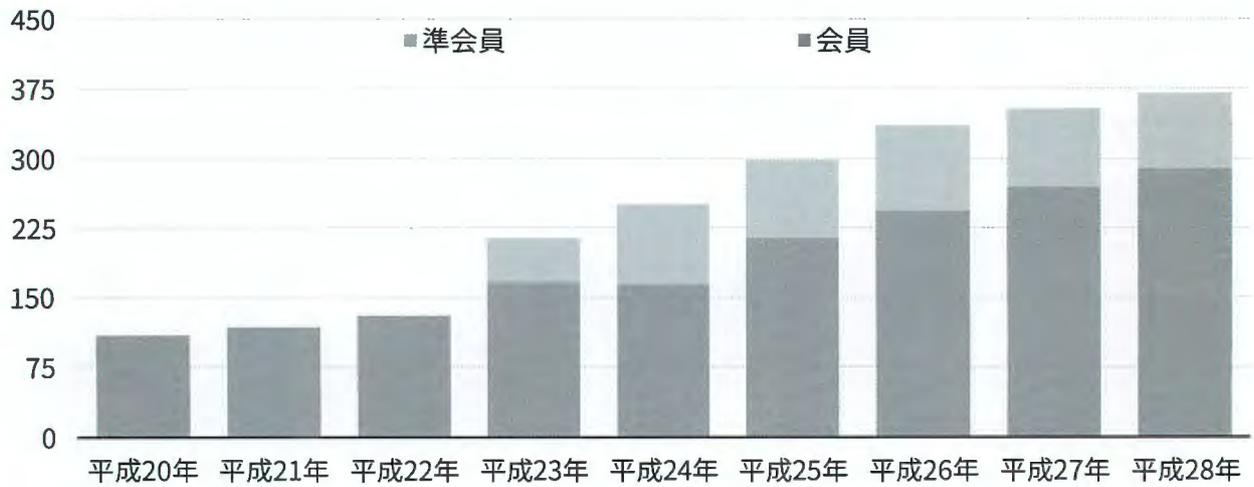
最近では科学的な研究知見（有効性）をそのまま臨床に応用させるのではなく、どうすれば実際の事例に馴染むのか（有用性）を検討する「根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）」に関心に移りつつあるように思います。今回の研修会ではそのような実践を行う上でも、アセスメントとケースフォーミュレーションは互いを補完しあう有用な評価法であることを学びました。このような学習の機会を与えてくださり、ご登壇いただいた先生方に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



# 歴史とあゆみ



◇会員数の推移



◇歴代役員一覧

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
会長	梶谷健二	小海宏之	二宮ひとみ	足利 学	足利 学
副会長	石田陽彦	岡村香織	足利 学	岡田弘司	岡田弘司
	寺嶋繁典	香川 香	岡村香織	川端康雄	吉川征延
幹事長	小海宏之	二宮ひとみ	香川 香	岡村香織	川端康雄
幹事	朝比奈 裕	上西裕之	上西裕之	有山 寛	稲葉真由
	足利 学	大槻奈穂	大槻奈穂	上西裕之	上西裕之
	岡田弘司	岡本吉史	岡本吉史	香川 香	岡村香織
	香川 香	首藤 賢	首藤 賢	首藤 賢	香川 香
	佐藤 純	中野明子	中野明子	土屋由希	若林暁子
	首藤 賢	中野弘敏	中野弘敏	南里裕美	
	二宮ひとみ	南里裕美	南里裕美	二宮ひとみ	
	花浴友利子	宮田智基	宮田智基	宮田智基	
		山本 愛	山本 愛	吉川征延	
		吉川征延	吉川征延		
会計	田口こゆき	松尾彩子	松尾彩子	松尾彩子	西藤奈菜子
		本村暁子	若林暁子		
書記	岡村香織	川端康雄	川端康雄		松尾彩子
	中村圭助	土屋由希	土屋由希		首藤 賢
会計監査	朝比奈恭子	田口こゆき	田口こゆき	小海宏之	小海宏之
	久本博行	花浴友利子	花浴友利子	山田由佳	根本由佳



## ◇研修の概要 (所属は当該年度)

関西大学臨床心理士会設立総会 平成19年7月21日(土) 関西大学会館4階ホール

記念講演 「被害者の気持ちに寄り添う…事例に学び考える…」  
講師：梶谷健二 (大阪府臨床心理士会会長)

第2回総会研修会 平成20年4月6日(日) 関西大学社会学部4501教室

特別講演 「臨床心理士はどうあるべきか」  
講師：葉賀 弘 (関西大学文学部元教授)  
司会：石田陽彦 (関西大学心理相談室)

シンポジウム 「臨床心理士の現状と今後の課題について」  
シンポジスト：大島吉晴 (京都府立こども発達センター)  
佐藤 純 (ノートルダム女子大学)  
司会：岡田弘司 (大阪医科大学)

### パネルディスカッション

コメンテーター：梶谷健二 (関西大学大学院社会学研究科)  
臨床心理士養成課程 寺嶋繁典 (関西大学)  
医療機関 小海宏之 (藍野病院)  
教育機関 石田陽彦 (関西大学心理相談室)

第3回総会研修会 平成21年4月5日(日) 関西大学社会学部4501教室

特別講演 「専門職大学院における臨床心理士養成」  
講師：石田陽彦 (関西大学大学院)  
岡田弘司 (関西大学大学院)  
寺嶋繁典 (関西大学大学院)  
司会：足利 学 (藍野大学)

シンポジウム 「臨床現場から大学の養成課程に求めるものと卒後教育について」  
コメンテーター：梶谷健二 (関西大学心理相談室)  
シンポジスト：医療領域 大槻奈穂 (大阪府立障がい者自立センター)  
福祉領域 久保樹里 (大阪市中央児童相談所)  
教育領域 南里裕美 (高取町教育委員会、熊取町教育委員会)  
産業領域 澤村律子 (大阪医科大学保健管理室)  
司法領域 柿木良太 (岐阜少年鑑別所)



**第4回総会研修会 平成22年4月4日(日) 関西大学第2学舎2号館C304教室**

基調講演 「卒後研修のあり方について」  
講師：梶谷健二（関西大学臨床心理専門職大学院客員教授）  
司会：二宮ひとみ（大阪医科大学）

シンポジウム

「若手臨床心理士が臨床現場で遭遇する困難場面を通じて考える卒後教育のあり方について」

コメンテーター：足利 学（藍野大学）  
香川 香（関西大学心理相談室）

シンポジスト：栗本尚枝（阪南病院）  
加藤佑佳（藍野病院）  
土屋由希（関西大学心理相談室）

司会：首藤 賢（藍野病院）

**第5回総会研修会 平成23年4月3日(日) 関西大学第2学舎2号館C304教室**

特別講演 「脳とこころの関係-発達障害、精神疾患、高次脳機能障害から考える-」  
講師：小海宏之（花園大学）  
司会：宮田智基（香良病院）

シンポジウムⅠ「臨床心理士業務における連携について」

シンポジスト：大槻奈穂（大阪府中央子ども家庭センター）  
岡本吉史（航空自衛隊幹部候補生学校）  
鈴木博子（阪本病院）

コメンテーター：石田陽彦（関西大学臨床心理専門職大学院）  
司会：中野弘敏（京都府警察本部少年課少年サポートセンター）

シンポジウムⅡ「災害支援に関わる臨床心理士」

シンポジスト：岡田弘司（関西大学臨床心理専門職大学院）  
澤村律子（大阪医科大学保健管理室）  
寺嶋繁典（関西大学臨床心理専門職大学院）

**第6回総会研修会 平成24年4月8日(日) 関西大学第2学舎2号館C304教室**

特別講演 「ジェンダー・アイデンティティに触れる心理臨床」  
講師：二宮ひとみ（大阪医科大学神経精神医学教室）  
司会：吉川征延（阪南病院）

ランチョンセミナー「リウマチ性疾患の子どもたちの描画に関する研究」  
講師：西藤奈菜子（関西大学大学院心理学研究科）

ワークショップ「全体評価による描画テスト解釈の実際」  
講師：寺嶋繁典（関西大学臨床心理専門職大学院）



**第7回総会研修会 平成25年5月12日(日) 関西大学尚文館1階マルチメディアAV大教室**

基調講演 「病院臨床の概観と展望」  
講師：岡田弘司（関西大学臨床心理専門職大学院）  
司会：上西裕之（小曾根病院）

シンポジウム「医療機関における臨床心理士の役割」  
シンポジスト：川端康雄（大阪医科大学神経精神医学教室）  
梨谷竜也（馬場記念病院）  
山田由佳（新阿武山病院）

**第8回総会研修会 平成26年5月11日(日) 関西大学尚文館1階マルチメディアAV大教室**

特別講演 「臨床心理士に求められる危機対応～高等学校における緊急支援を中心に～」  
講師：足利 学（藍野大学）  
司会：吉川征延（阪南病院）

分科会1 「心理検査における所見の書き方」  
講師：澤村律子（大阪医科大学保健管理室）  
事例提供：竹口真由（阪南病院）  
司会：中野明子（藍野病院）

分科会2 「『聴く』専門家の『伝える』力～プレゼンテーションのコツ」  
講師：榎本正己（ジャパンEAPシステムズ関西支社）  
司会：川端康雄（大阪医科大学神経精神医学教室）

**第9回総会研修会 平成27年5月10日(日) 関西大学尚文館1階マルチメディアAV大教室**

特別講演 「女性のライフサイクルとメンタルヘルス」  
講師：香川 香（関西大学大学院心理学研究科）  
司会：若林暁子（大阪医科大学神経精神医学教室）

分科会1 「精神科治療薬と薬剤師による臨床実践」  
講師：野村久美（阪南病院薬局長）  
司会：吉川征延（阪南病院）

分科会2 「CBTの問題把握の視点と変化への誘い」  
講師：巢黒慎太郎（住友病院）  
司会：藤田 雄（藍野病院）



IV

あ的那个人は今！



## あの人は今！

関西大学臨床心理士の会員の先生には、大学での卒業・修了後、そのまま関西でご活躍されている先生もいれば、関西を離れられご活躍されている先生もおられます。ご活躍されている領域・地域が多岐にわたることもあり、同期の先生であっても、なかなかお会いする機会が持てないこともあるかと思えます。そこで、10周年記念誌では、幹事より様々な領域、地域でご活躍の先生をご推薦させていただき、下記のご質問について、インターネットを通じてご寄稿をいただきました。

- ①現在の近況やご活動、ご活躍について教えてください。
- ②関西大学（大学院、臨床心理士会）について、思いや思い出、印象に残っていることなどを教えてください。

先生方にご寄稿いただいた記事で、関西大学・大学院の時代のことを思い出し、同期や先輩・後輩と連絡を取るきっかけになればと考えております。ご寄稿いただきました先生方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

### 新路子先生（石川県中央児童相談所）

- ① 出身地の石川県に戻り、児童相談所の児童心理司として勤務しています。虐待への対応や非行少年の面接が中心になりやすく、クライアントの相談ニーズが表立ってはみえない場合が少なくないですが、ニーズがみえづらい中で、どう相手と相談関係を築けるようになるか、隠れていた課題やテーマを共有できるようになるかに、難しさややりがいを感じています。また、子どもと相談をすすめていく際には、気持ちや変化が、言葉で直接表現されないことが多くあります。遊びや描かれる絵の中に表現されている思いや子どもの小さな変化を感じとれるように、感受性や柔軟さを持っていたいというつもっています。
- ② 大学院時代、心理相談室での勤務時代を振り返ってみると、先輩や先生方とのつながりが近くに感じられ、安心しながら挑戦できる環境にいられたと思います。実習先の精神科の病院では、先輩や先生方のサポートのもと、イニシャルケースを持たせていただきました。実際の臨床場面にこわごわとしながらも、クライアントと症状の背景にある課題を一緒に考えられる貴重さを感じました。一方で、簡単にはいかず、うまくいかないことや曖昧さに耐える大変さも知りました。結局、中断してしまうのですが、中断時に起きていたことや自分の方の問題、クライアントの方の課題をそれぞれ見立てる視点を教えていただいたと思います。今も、相談がうまくいかないときには、見立てをし直すことが大切だと改めて感じています。また、医療、教育、福祉、産業の領域で、先輩や先生方が活躍されている姿から、自分がどんな心理士になりたいのか、少し先の未来像を思い描くことができたのも、関西大学でのつながりの魅力だと思っています。今は、皆様と少し離れておりますが、皆様にご活躍されていることを励みに、自分のできることに臨んでいけたらと思っています。

### 磯部智代先生（浜松医科大学精神医学講座）

- ① 主に精神科にて、気分障害、発達障害、摂食障害、解離性障害などの精神疾患を抱えた方の心理査定、心理面接を担当しています。リエゾンの一環として、緩和病棟や小児科病棟の患者様にも関わっております。医師、看護師、ソーシャルワーカーなど、様々な職種の方々と相談しながら、対応にあたっています。他にも、単科精神科病院・クリニックや、私立中・高等学校のスクールカウンセラーとしても勤務しています。
- ② 心理査定法の授業やスーパーバイズの時間が今でも印象的に残っています。授業を受けていた当時は進行についていくことにやっとなかなか自分の思うところを発言するに至ることができませんでした。しかし、臨床現場に出て、あのときこういう風に先生は仰っていたな等、そこで教えて頂いたことを思い返すことが多いと感じています。また、プラクティカルソリューションは大好きな時間でした。同期だけでなく、先輩や後輩も一緒に学びを深めていくことができ、とてもわくわくしていたことを思い出します。今でも学会等で先生、先輩方のご活躍を知る度に、もっと学びたいとわくわくした気持ちになります。臨床や研究の面で、私ももう少し形になるものを作っていかなければ、と思う次第です。学生という学びに全力を傾けられる時間はとても貴重なものだったと思います。同じ時間を共有した方々に感謝の思いでいっぱいです。

### 沖田靖晃先生（大阪保護観察所）

- ① 現在、大阪保護観察所で社会復帰調整官として勤務しています。保護観察所は医療観察制度の対象となる人の処遇に当初審判のときから一貫して関与し、関係機関相互の連携が確保されるよう、処遇のコーディネーター役を果たすこととされています。社会復帰調整官は保護観察所においてこの制度による処遇に従事し、対象となる人の社会復帰を支援する専門職であり、主に精神保健福祉士が活躍している職域です。この制度は、心神喪失又は心神耗弱の状態、重大な他害行為を行った人を対象としており、このような人の社会復帰には困難を伴う場合も多く、関係機関と連携しつつ、日々悩みながら仕事をしています。
- ② 大学時代には高橋雅春先生、大学院時代には石川啓先生、寺嶋繁典先生から指導していただいたことは、今でも思い出すことがあります。思い出す内容は、「初心者の頃のみっともなさ」に関係するエピソードが多いです。学生時代を振り返ると、なりたい自分を探しながら、知らず知らずに現在の土台を作り始めた時期だと思えます。また、大学院の同期とは現在も交流が続いており、私の財産になっています。最後になりましたが、関西大学臨床心理士会が10周年を契機として、さらに一層充実、発展されますことを心からお祈りいたしまして、拙い文章を閉じさせていただきます。

### 尾島理絵 先生

- ① 以前は総合病院の非常勤心理士として、心理検査やカウンセリング業務に従事しておりましたが、第3子出産を機に退職し、現在は乳幼児健診での心理相談員として地域の母子保健に貢献するべく活動しております。
- ② 病院に勤務しているときには、大学院で心理検査をしっかりと学べてよかったと実感することが多かったです。特にロールシャッハテストにじっくり取り組めたことは実際の業務での支えになったと思います。葉賀先生の授業での先輩方、同期とのディスカッションがとても印象に残っています。



### 小田佳子 先生 (大阪薬科大学学生相談室)

- ① 出産を機に常勤職を退職し、仕事と家庭のバランスを模索しながら、現在は週一回の学生相談の仕事の大切を続けさせていただいています。本格的な仕事復帰への焦りもありましたが、今おかれている環境で体験を深めることが心理臨床に役立つと信じて生活してまいりました。ここ最近、我が子の成長をみるにつけ、私の生活のバランスを変えていく時期が近づいてきたと感じています。みなさま、研修や現場で一緒にすることがありましたら、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。
- ② 院生時代、文学部の心理学第二実験室で仲間と一緒に難しい文献を頑張って読んでいました。とても丁寧に読んでいくので、誤植を発見するんです。盛り上がりました。

### 海蔵寺陽子 先生 (石田クリニック)

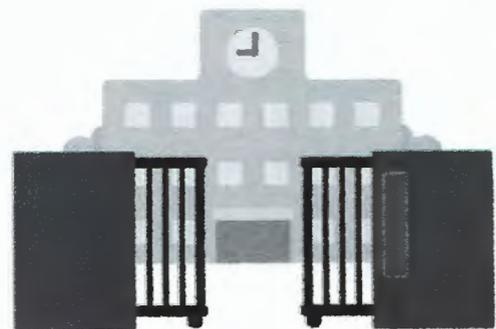
- ① クリニックの患者さんに対し、カウンセリングや心理検査を行っています。
- ② 大学院時代、修士論文執筆のため夜遅くまでみんなで勉強したことが懐かしいです。卒業後も関西大学臨床心理士会の研修会などを通じて、先生方や同期の友人らと交流することができ励みになりました。

### 片山貴美子先生（医療法人 爽神堂 そうしん堂レディスメンタルクリニック）

- ① 現在、精神科・心療内科クリニックでの個人精神療法や心理検査業務に加えて、教育、産業界領域のコンサルテーション業務に従事しています。人の心と誠実に向き合い、関わる仕事をする上で、精神分析を学び続けることが自分の軸となっており、そこで出会う師や仲間を支えられていることを実感します。
- ② 大学卒業後、社会人経験を経て、臨床心理士を目指す一歩を踏み出した時に、葉賀弘先生の元集まる諸先輩方の研究会に参加させて頂きました。右も左も分からぬまま、先輩方にたくさんの質問を投げかけ、職場見学と称して押しかける私を暖かく迎えてくださり、勇気づけてくださったことにとっても感謝しています。あれから、20数年経ち、臨床の現場で後輩の先生方と出会う機会が増えました。その度に、関大生の根っからの逞しさに感服し、元気をもらっています。

### 加藤春奈先生（大阪府立精神医療センター他）

- ① 医療機関にて成人を対象とした心理検査業務を、また、中学校にて、地域臨床的な働きを持つスクールカウンセラー業務を、勤めさせて頂いております。
- ② 関西大学臨床心理士会が無事10周年を迎えられましたこと、お祝い申し上げます。修了して間もない若輩者の立場としては、大学院時代はつい先頃の事のように振り返る事ができます。様々な領域でご活躍される先生方のもとご指導を受け、色々な目線から色々な事例と出会う事が出来、臨床家としての基礎の基礎に触れることができました。ですが、一番の刺激になったのは同期の存在です。2年間、それぞれ違う方向を向きながらも同じ道を志す人達が30人、朝から晩まで共に過ごすのは、かなり密度の濃いグループ体験だったと思います。自分の未熟さに接する様々な場面を、誰かと共に乗り越える事が出来たのは、なによりも貴重な経験だったと感じています。



### 加藤佑佳 先生 (京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学)

- ① 2011年4月から現在の職場に勤務し、老年期臨床における神経心理アセスメント、また、高齢者の医療同意能力評価に関する研究を行っています。昨年新たに本学において保健管理センターが開設され、職員や学生の面談も担当するようになりました。これまで携わっていた老年期臨床とは異なる業務に、試行錯誤しながら取り組んでいます。また、私事ではありますが、昨年8月には第1子を出産し、産休・育休を経て、この4月に現職に復職いたしました。医局の皆様の温かいご理解と学内保育所のお陰で、なんとか仕事と育児の綱渡りの日々を送っています。
- ② 大学院時代は短い期間ながらも非常に密度の濃い2年間でした。毎週1回、外来の患者さん相手に知能検査や発達検査を実施し、練習用の所見を書いて、現場の先生方にご指導いただいた病院実習は、教科書や座学だけでは学びきれない知識を得て、かけがえのない体験となりました。当時、ゼミの教授であった寺嶋繁典先生、実習先でご指導くださった岡田弘司先生、二宮ひとみ先生、原祐子先生には心から感謝申し上げます。また、大学院棟の自習スペースで、日々パソコンや論文とにらめっこしながら修士論文を作成したことも忘れられません。論文提出の締め切りが迫るにつれ、自分のデスク周りに文献の山を築き、鬼気迫った様相を呈していましたが、休憩の合間に同期とお喋りして気分転換したり、お互い励まし合ったりしながら取り組んだことは、今となっては良い思い出です。同期がいたからこそ、やり通せた2年間でした。

### 加藤由季 先生 (公立甲賀病院)

- ① 公立の総合病院であり、地方の急性期から緩和治療までを担う病院にて、患者さんへの援助に携わっております。外来では、認知症やパーキンソン病患者さんへの臨床・神経心理検査や、面接を希望された患者さんに心理療法面接を実施しています。入院患者さんとは、依頼を受けてアセスメントや面接にて関わり、緩和ケア病棟や回復期リハビリ病棟の患者さんが多くを占めています。最近の業務の動向として、認知症や難病など長期的な治療を必要とする患者さんが多く、そうした患者さんのQOLが向上できるような支援を考え、チームでの活動等を計画しています。病棟の特色に合わせ、病期やチーム支援について他職種と勉強会を開催しています。今後、高齢化や病院の機能分化に伴い、臨床心理士の活動も需要に沿って対応していく必要性を感じており、研鑽を積んでいきたいと考えています。
- ② 関西大学にて、社会学部から大学院まで6年間学ばせていただきました。学部では実験心理学や認知心理学など幅広い心理学に触れることができました。大学院では、実習や臨床心理学にて学びを深めることができました。学部での学びが大学院へ、そして現在の仕事へと繋がっていたと感じております。この繋がりは、私たちが臨床心理士として活動していくことを見据え、指導してくださった先生方が作ってくださったように感じております。そして、卒業後も臨床心理士会にて、普段の業務を振り返るきっかけとなるような、新鮮な研修会を企画していただき、刺激を受けております。また卒業後も頼れる先生方や、お互いに励まし学び合う同志との関係が現在の私の支えとなっております。

### 楠無我先生 (I-QUON 株式会社)

- ① 勤務先は精神科クリニックを母体とするコンサルティング会社です。企業と契約を結び、健康管理に関する制度設計、人事労務担当者や管理職へのコンサルテーション等を行っています。また、弊社は関連クリニックの患者さんに対して、認知行動療法を提供するカウンセリングルームでもあり、現在は疾患や主訴ごとの集団プログラムの充実に力を入れています。事業の立ち上げから、もうすぐ5年を迎え、さらに成長のアクセルを踏んでいかななくてはいけない時期にきています。新たなメンバーも求めていますので、興味を持ってくださった方はお気軽に声をかけてください。
- ② 私が関西大学で得たものは「弱い紐帯の強さ」(Granovetter, M., 1973)だと思っています。多様な個性と専門性を持つ先生、同期、先輩、後輩とゆるく繋がっていただけることは、職業人として何よりも心強く、ありがたいことだと思っています。

### 隈部知更先生 (PBC 臨床人間学研究所)

- ① 地元の大学勤務を経て、現在は、私の生家である安養寺(あんにようじ=浄土真宗本願寺派)という寺の住職を本業としながら、自らのライフワークとして「PBC 臨床人間学研究所」という小さな研究所で研究活動や心理相談の仕事をしています。特筆すべき近況は、やはり熊本地震です。あの日を境に熊本は一変。以後、復興の道のりを歩いていますが、先日、関大OGが被災した子どもたちのために臨時SCとして駆け付けてくださいました。県内全域で日常を取り戻すにはまだ長い時間がかかりそうですが、全国各地からの支援に感謝しつつ、「支えあおう熊本 いま心ひとつに」を合言葉に日々を過ごしています。
- ② もともと他の大学(学部4年+修士課程2年)で哲学を専攻し、「生と死の問題」を研究していましたが、更に臨床心理学からのアプローチを試みたいという動機を抑えきれず、1997年に社会人として関西大学大学院に入学。当時学長をされていた石川啓先生のゼミに在籍し、「現代人の死生観」に関する研究に取り組みました。哲学と心理学では研究方法が大きく異なるため、大学院の講義の合間に学部の講義も受講し、データの収集や分析方法について学びました。2年で修士論文を書くのは大変でしたが、石川先生に加え、寺嶋先生にも指導していただいたおかげで無事に提出することができました。その後、博士課程後期課程に進学。3年で学位論文も提出することができました。今振り返れば、分析や執筆に苦労したことも思い出されますが、たくさんの方々を支えられながら研究生活を続けることができたことに、ただただ感謝しています。関係者の皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。以上のように研究に重点をおいていたこともあり、臨床心理士の資格は同期から遅れること5年、新しい試験制度に移行する直前に取得、現在2回の更新手続を終えたところです。先日、「関西大学臨床心理士会10周年記念大会」が開催されましたが、恥ずかしながら10年目にして初めて参加させていただきました。懐かしいキャンパスの香りを感じながら、寺嶋先生の講演内容に改めて関大心理学の真髄に触れることができたような気がして、「やっぱり関大っていいね!」と思いました。

### 越川陽介 先生 (関西医科大学精神神経科学教室)

- ① 現在は精神科医主導の臨床研究を始めとして治験や国際共同研究などにおいて精神疾患の認知機能、社会機能などの評価を中心に研究を行っています。また、臨床面ではうつ病や適応障害の社会人の職場適応のための心理検査やカウンセリングを行っております。
- ② 大学院では授業の一つであるSD合宿がとても印象に残っております。知識を得るための授業だけでなく、体験的なワークを通じて自分自身を振り返る時間をとったり人間的に成長するきっかけを頂いたことは修了した今でも大事な時間であったと感じております。仕事を始めた今でこそ、立ち止まり自分のことを振り返る時間が必要であることに思いを巡らすことが多くあります。これからもSD合宿の様な場を仲間とともに作っていかれたらと思っております。



### 櫻井聖子 先生 (関西大学心理臨床センター)

- ① 心理臨床センターでの相談業務の他、総合病院で心理カウンセリングの外来をもたせていただいております。院内外の多様な科より紹介された心因性が疑われる、あるいは心理的支援の必要なケース、検査依頼などにも対応しています。
- ② 同期友人からの刺激や支えは生涯の宝です。同様に、先輩方にはいつも導いていただきました。職業人のみならず、個人としてもたくさんの師に恵まれ、感謝の念に堪えません。

### 平野智子 先生 (なにわ生野病院・関西医科大学非常勤講師)

- ① 非常勤職を掛け持ちしており、医療・産業領域での心理面接や大学での講義などを主な業務としています。昨年度より大阪府内の公立学校教職員のメンタルヘルス支援に関わることが増え、教育現場の先生方の厳しい現状を目の当たりにしております。
- ② 様々なことでお困りのクライアント様に、心理士としてどのように関わらせていただくことができるかと悩みの尽きない日々を過ごしていますが、大学院で学んだことや、ふと思い出される先生方のちょっとしたひと言に助けられることも少なくありません。そのような教をいただけたことをありがたく思います。もっとしっかり勉強しておけばよかったという思いも少なからずありますが…。

### 細田陽子 先生 (大阪府 心理職)

- ① 児童福祉や障がい福祉の分野で、ご相談に対応しています。
- ② 先生方および先輩方からはいつも丁寧にご指導いただきました。臨床心理士としての基本的な姿勢を形成する時期にご指導くださったさまざまな事柄は全て私の財産となっています。

### 松井京子 先生 (医療法人紫博会 なかむかいクリニック)

- ① 心療内科クリニックで、主に精神科ソーシャルワーカーとして、患者さんやそのご家族の生活全般（例えば医療・福祉制度の説明、福祉サービスの紹介、入退院の援助、家族調整、経済的問題等）に係る相談業務を行っています。また、市からの委託で、同法人が併設している相談支援センターの相談支援専門員として、地域に生活する精神障がい者の生活の相談、支援を担当しています。さらに、臨床心理士も兼務しており、認知療法等のカウンセリングを行っています。
- ② 私は、1978年関西大学高橋ゼミを卒業し、高橋先生の指導の下、何とか臨床の仕事に就くことができ、現在に至っています。関西大学の臨床心理士会がまだ関西臨床心理研究会として発足したときに、お手伝いし、勉強させて頂いていました。当時は、人数も少なく勉強会のようなこぢんまりした会でしたが、ケース検討など会員間で活発なやりとりができ、大変勉強になりました。会の終了後の飲み会が楽しみだったのが思い出されます。今や会は発展し、関西大学臨床心理士会として10周年を迎えられるとのこと、おめでとうございます。私は、還暦を迎える年になり、現在の会員の皆様におめにかかる機会はありませんが、多くの関西大学で臨床心理を学んだ方たちが、ますます活躍されるのを楽しみにしています。

### 中野弘敏 先生

- ① 現在は京都の公的機関にて少年相談に従事しています。
- ② 私は文学部から大学院に進学し、その後の心理相談室での勤務を含めて10年間、関西大学でお世話になりました。そのため、私にとっての関西大学は20代の象徴であり、青春そのものです。近頃は大学まで足を運ぶことはめっきり減りましたが、関西大学臨床心理士会は大学まで出向く機会を与え、ご縁のあった人々と再会させて下さる存在であり、大変ありがたく思っています。今後も機会を頂ければ参加し、臨床心理士を目指していた頃の熱さを取り戻して明日への活力につなげていきたいと思いをしています。

### 中村 絢 先生 (流通科学大学学生相談室)

- ① 学生相談室、心療内科のカウンセリング室などに勤務しています。
- ② 私は専門職大学院1期生です。初年度でしたので修了要件単位も多く、熱心な先生方にご指導いただいた大学院生活はあっという間でした。個人的には、入学してしばらく夕方になると頭が熱くなり、帰宅すると冷えピタを貼る生活をしていたことが思い出です。会社員を経験した後に入学し新鮮で有難い久しぶりの座学を名一杯詰め込んだためかと思えます。学べる機会を逃すまい!と、とにかく一所懸命でした。今となっては良い思い出です。授業では、医療、教育、産業、司法領域の施設で学外実習を受けることができました。セルフディベロップメントや地域臨床活動では仲間との沢山の思い出があります。また研修実行委員となり先輩の先生方に現場の仕事を教えていただく研修を企画、実行できたことは学びが多く現場に出て役立つことが多かったです。振り返ると密度の濃い2年間。現在、臨床心理士となり5年目に入りました。これまで走ってきましたが、歩みを振り返るといつも仲間に支えられてきました。直接会うことはなくても出会った関係に別れはなく、先生、先輩、同期、後輩の方々につながり、支えていただいていると感じています。臨床活動は山あり谷ありです。これからも、倒れても泥でもつかんで立ち上がるような生き方をしていきたいと思っています。多くの方に支えていただいているぶん、私も何かお役に立つことができたらと思っています。

### 二之宮正人 先生 (八幡厚生病院)

- ① 現在、うつ病リワークと重度慢性期病棟担当です。所属学会は日本集団精神療法学会です。興味のある方こちらにもご参加ください
- ② 皆様には大変お世話になります。また、執筆のご推薦ありがとうございます。いつもご連絡いただければかきで、出席できていませんが、いずれどこかで参加したいと思いをしています。

## 永井知子 先生（四国大学短期大学部幼児教育保育科）

- ① 現在は四国大学で保育の心理学（発達心理学）や教育相談、障がい児保育などの授業をさせていただきながら、月に1度か2度の発達相談（健診後のフォロー相談）、大学内の学修支援（面談等）を行っております。また臨床現場での親子と関わる経験から、養育者の援助要請行動に注目し、子どもたちが幸せで安心感のある生活を送るために養育者にできるサポートのあり方について研究および実践をしています。今後も学会や研究会等でお会いする機会がありましたら、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ② 私にとって大学・大学院生活は「出会い」の場所だったように思います。当時、自分自身と向き合う時間がとても多く、生き方について深く悩み、模索していた時期が長く続いていました。そんな中、出会った先生方や同期、先輩や後輩とは研究のことだけでなく、人生について朝まで熱く語り合っていたことをよく覚えています。あの時期を支えてくださっていた方々には、今でも多くの縁が続いており、人生の岐路に立たされるたびに相談に乗っていただいています。また、大学院時代、発達相談や療育、虐待関連などで臨床現場に携わっていました。多くの専門職の方と意見交換をしたり、様々なことに挑戦させていただいたりしたことで学びを深めることができました。そしてその経験があったからこそ、現在の自身の研究テーマと出会うことができ、全国どこにいても子育て支援の現場とつながることができていると感じます。私の人生を支えてくださっている、すべての人や経験と出会わせてくれた学び舎に心より感謝しています。そして、今後も臨床心理士会などで様々な分野で活躍する先生方との出会いが広がることを楽しみにしております。

## 中上恵利子 先生（香良病院）

- ① 兵庫県丹波市にある香良病院という精神科病院で、カウンセリングや心理検査を中心に業務を行っています。同門の後輩と二人の職場で、お互い事例の相談をしつつ、日々の臨床に取り組んでいます。今年は病院中のチューリップの芽100本がシカに食べられました。冬はみんなで雪かきをするなど、とてもフランクな職場です。自然豊かでのびのびとした環境で楽しく過ごしています。
- ② 大学院では実習や修士論文などで毎日が目まぐるしく過ぎて行ったように感じています。当時は自習室に夜遅くまで残り、同期とお互いの実習であったことや講義やゼミで先生方から学んだことについてよく語り合っていました。何気ないことであっても、あの頃に共に追究していったことが今の臨床でも生かされており、自分の根っこの部分のように思われます。また、個人的な考えですが、事例などでつまづいたときには初心に帰ることが大事だと思っております。関西大学臨床心理士会は大学院時代にお世話になった先生方ともお会いする機会となりますので、参加することが自分の活力になっています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 田邊 絵理子 先生

- ① 現在は、子どものいるご家庭の相談を中心に行っております。その内容は幅広く、発達相談や育児の方法、虐待についても関わらせていただいています。ニーズのある方ばかりではないので、日々、支援の難しさを感じております。
- ② 大学院では多くのことを学びながらも、楽しく過ごせました。少人数の授業がいくつかあり、先生方にも相談しやすかったため、就職直後にも何度もお世話になりました。今後も、関西大学での出会いを大切にしたいと感じております。



## 中井美彩子 先生 (中西メンタルクリニック・橿原市こころのケアルームカウンセラー)

- ① 大学院卒業当初からずっと同じ大阪市のクリニックでお世話になっています。成人の方の心理検査がメインですが、最近はカウンセリングの依頼も多くなり、継続ケースが増えてきました。また、奈良県橿原市では、学校内における問題の早期発見や予防を目的とした市の事業に携わっており、校内を巡回し積極的に生徒と関わっていく形で中学校のスクールカウンセラーをしています。
- ② 学会等で他大学出身の方にお会いすると、「関大の方はみなさん仲が良いですね」と言ってもらえることが度々あります。振り返ると、合宿で寝食を共にしたり、用もないのに遅くまで自習室に残って友達や先輩・後輩と話したり、音楽経験者が集まってバンドを組んだり…と楽しい思い出が多く、様々な時間を共有していたなと思います。卒業した今でも縦に横につながりが感じられ、「関大出身」という仲間集団は現在の私にとってとても大切な存在です。

## 田代しらべ先生（独立行政法人国立病院機構 東尾張病院）

- ① 専門職大学院を修了後、名古屋大学医学部附属病院での前期研修を経て、現在後期研修として国立・県立・民間の精神科病院で勤務しております。後期研修ではロールシヤッハ法を中心とした投影法検査や力動的精神療法を行っており、日々新たな視点を発見できることに充実感を感じています。最近の私は幼児から成人までの発達障害の知的・認知評価を専門としております。特にお子さんへの検査は大変ですが、終わった後に「楽しかった!」「また来る!」と言っていただけることが多く、私の方が嬉しい気持ちとなります。生涯継続的に評価をする子が多いため、“病院って怖くないな”“またやりたいな”と次回の来院や検査に対する動機づけを高めるようころがけています。出会いから別れまでほんの数時間の場面ですが、今後も関係性を大切にしながら取り組んでいこうと考えております。その他にも母校の大学で新入生にキャリア教育の講演をしたり、司法施設で鑑別検査を施行する機会もあり、大変貴重な経験をさせていただいております。いずれの機会もお世話になっている先生方からお声がけいただくことがきっかけであり、改めて人との繋がり大切さを身に染みて感じております。これからも向上心を忘れず、臨床家としても1人の人間としてもより成長できるよう研鑽を積んでいきたいです。
- ② 福祉コースに所属していました。保険医療福祉センターと高齢者ケアセンターで実習をさせていただき、幼児からご年配の方まで幅広い年齢層の方々とかかわる機会がありました。実習中は大変緊張しておりましたが、いずれの実習先でも利用者様から声をかけて下さったり、グループワークに誘って下さる方もおり、利用者様の優しさに多く助けていただきました。また、利用者様や多職種の先生方との接し方やマナー、配慮する点を多く学び、現在の臨床場面でも生かさせていただいております。特にマナーや言葉遣いは現在の職場で褒めていただいております。実習の賜物だと感じております。修了を目前に控えた時期にはコラージュ制作において台紙を加工するか否かを選択することが及ぼす心理的効果を検討した研究に取り組みました。卒業論文の延長として急遽立案した研究計画でしたが、就職活動等で忙しい同期や優しい後輩からの協力や先生方のご指導により、私1人では成しえない研究となりました。臨床活動や学期末試験と並行して限られた時間の中での論文の執筆活動は苦しかったですが、特に同期には多く支えていただきました。ご迷惑をおかけすることもありましたが、最後まで見守って下さり、ありがとうございました。このときの研究が楽しく、現在も研究活動に携わっております。そして専門職大学院を修了してからは、研修会や私用等で同期や先生方からのお話をうかがうたびに大変刺激を受けております。頻繁にはお会いすることができないため、寂しくなるときもありますが、修了後もこのような繋がりがあることが励みとなっております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 田尾依子先生（関西大学心理相談室 京都外国語専門学校）

- ① 学生の心理相談業務に携わっています。プライベートでは、5歳と8歳の娘の子育てに奮闘する毎日です。
- ② 院を卒業後、ゼミ生で定期的集まって臨床心理士の資格試験の勉強をしていたのを思い出します。当時は今のように対策本や対策講座ではなく、発表されている一部の過去問からしか勉強するすべがなかった時代でした。各自が分担してレジュメを作り、助け合って勉強していたことはとてもいい思い出です。また先輩からも、論文でどんな問題が出たか、面接でどう乗り切るかなどのアドバイスを数多くいただきました。関大には、共に助け合い高め合う、そのような文化が当時から根付いていたように思います。

### 高谷唯先生（花園大学心理カウンセリングセンター）

- ① 今年度から花園大学心理カウンセリングセンターで勤務しています。
- ② 大学で働くようになってから、ふと大学院でのことを思い出します。学ぶことの楽しさ、向き合うことの辛さ、いろいろな感情を体験したように思います。間違いなく、大学院での2年間は、今の臨床心理士としての私はもちろんのこと、個人としての私の一部を作り、支えてくれていると思います。改めて、多くの先生方や先輩方、同期の皆と出会えたことに感謝するとともに、これからもそんな場所であってほしいと願います。

### 進賀友一 先生 (玉野市教育サポートセンター)

- ① 岡山県玉野市の職員として13年目になりました。教育領域に限定されることなく、医療・保健・福祉領域等、幅広く協働連携が求められます。小さな自治体ですが、地域臨床のすべてが盛り込まれたようなエキサイティングな毎日をおくっています。
- ② 栄えある寺嶋ゼミ1期生です。思い出の全ては、社会学堂と体育館(バスケット部)と雀荘、3回生から行かせていただいた実習先にあります。私の臨床のすべてはここから始まりました、その全てに感謝です。



### 瀬崎由佳 先生 (国分病院・大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか)

- ① 病院では、心理査定やカウンセリングを行っています。発達障がい者支援センターでは、親支援としてペアレントトレーニング、機関支援として発達障がい児・者が利用している施設へのコンサルテーションを行っています。あとは、月に数度ですが、保健センターで乳幼児健診や母子手帳交付会などの事業に参加してハイリスクな人の選定をしたり、困難ケースのコンサルテーション、面談などを行い、地域支援をしています。
- ② 臨床心理の基礎を学んだ貴重な場所で、訪れると初心に戻れる場所です。慌ただしい日常では流されてしまう事も多いのですが、関西大学の存在があるおかげで、一時立ち止まって自分の仕事を見つめ直す事ができます。

### 貞木隆志 先生 (大阪市こども相談センター)

- ① 心理相談担当という部署で、発達や虐待相談への対応に従事しています。また、現在、大阪府臨床心理士会の福祉部会担当理事を務めています。
- ② 関西大学臨床心理士会設立 10 周年、おめでとうございます。私が大学院にいた頃を考えると、世の中も臨床心理士を取り巻く情勢も大きく変わりました。修士論文を書くために大学の情報処理センターにあるスーパーコンピュータを使って、パンチカードや FORTRAN という呪文のようなプログラム言語と格闘しつつ、一晩がかりで分析をしていたのが (エラーで計算できてないことしばしば……)、今や自宅のパソコンで手軽に同じ分析が瞬時にできてしまいます。文献探しもまる 1 日、総合図書館にこもって Abstract という文献目録とにらめっこでしたが、これもネットで簡単に検索できるようになりました。便利になったものです。資格も夢のまた夢だったのが、臨床心理士の資格ができ、昨年にはついに公認心理師という国家資格の法案が国会で可決されました。私が勤務する職場も児童虐待の問題で仕事の内容が一変し、相談ニードがなく対立関係からスタートするケースにいかに関わっていくのか、という課題に向き合う毎日となっています。急激な世情の変化が人の生活や心のありようにおよぼす影響は大きく、結果として心の専門家に対する社会のニーズは今後も高まっていくことでしょう。臨床心理士を取り巻く状況が大きく変わりつつありますが、そういった波にのまれることなく、私の母校である関西大学と関西大学臨床心理士会がますます発展していくことを期待しております。大学・大学院の先生方、ご苦労が多いかとは思いますが、是非ともよろしく願います。

### 白崎愛里 先生 (近畿大学医学部附属病院心療内科)

- ① 大学病院の心療内科・緩和ケア科に勤めており、主に外来患者さん、入院患者さんの心理検査とカウンセリングを担っています。当科は、科として独立してからまだ 1 年半ですので、心理士の業務もまだまだこれから拡大中といった感じです。現在は集団療法の枠を作るべく、部屋や時間の確保、プログラム作成など他職種と連携しつつ検討しています。
- ② 大学院時代は、先生方や先輩、同期生との出会いが本当にとっても思い出深く残っています。私は、学部生のころは家・学校・アルバイトの往復で、朝起きてからアルバイト先で接客するまでほとんど口を開かなかった、という一日も多くありましたので、大学院での密な関係性はいろいろな発見があり、大切な体験になりました。また何より、そうした暖かい関係性の中で丁寧に自分を見つめる時間を作っていただいたことがありがたく、それが今現在やこれからの自身の働き方、生き方を考えていく上で重要な基盤になっているように思います。



### 宮下里紗先生（八尾市こども未来部子育て支援課）

- ① 虐待対応や家庭児童相談を中心として、子育て支援の現場で勤務しております。
- ② 関西大学では、学部生として、大学院生として、修了後も心理相談室にて社会人として、お世話になりました。今回寄稿させていただくにあたり、関西大学での数年間を振り返りました。学部生の頃にゼミでプログラミングと格闘したこと、大学院ではより専門的な知識や実習での臨床に触れ、心理士への志を強くすることができたこと、心理相談室で初めてケースを受け持たせてもらった時のこと…どの時期にもそれぞれ思い出深いエピソードがあり、その時お世話になった先生方、一緒に過ごした同輩の顔が心に浮かびました。関西大学では、現在の仕事につながる心理学について学ばせていただいただけでなく、たくさんの先生方、先輩・後輩、友人と出会わせていただき、困ったり迷ったりした時に立ち返ることのできるベースや軸のようなものを与えていただけたと思っております。そして、現在も会に所属するというかたちで母校と繋がりを持つことができ、大変心強く思います。今後も修了生として、会の一員として、初心を忘れず努力を重ねていきたいと思っております。

### 山口智子先生（大阪大谷大学学生相談室他）

- ① 大学カウンセラーの他、大阪府教育センター専門相談員、大阪府・市SCとして、様々な年齢の子ども達や成人の方と関わっております。
- ② 関西大学心理相談室のピアカウンセラーとしてお世話になった3年間は、私にとって貴重な財産であり、同期の仲間は、今も励ましあい、共に学べるかけがえのない存在です。心より感謝申し上げます。

### 米田 祥先生（京都府立医科大学付属大学院精神機能病態学教室研究補助員）

- ① 現在は、所属する精神機能病態学教室の研究事業の補助を行っております。それと並行して、京都府立医科大学精神科の認知症疾患医療センター、綾部市綾部市立病院精神科、京丹後市立弥栄病院こころのケア外来の3か所で臨床業務を行っております。業務内容としては、高齢者に対して神経心理学的検査を用いて認知機能検査を実施しております。その他カウンセリングもわずかですが実施しております。
- ② 幅広い領域の知識を学んだり、施設で実習をさせていただいた事です。日々の臨床の中でふとした時に、大学院時代に学んだ事がふと思い出されます。



## 編集後記 (10周年記念事業委員会)

### 編集委員

この度、編集委員として主に「あの人は今！」を担当し、会員の先生方にWEBフォームによるご投稿をお願いさせていただきました。突然のお願いにもかかわらず、たくさんのレスポンス・ご投稿を頂き、関西大学臨床心理士会と会員の先生方との繋がりを強く感じることができました。この記念誌が、関西大学の事を思い出したり、会員の先生方の絆を強めるきっかけになることができれば幸いです。末筆ながら、多数の先生方のご協力を賜りましたことを感謝いたします。

(上西)

久しくお会いすることができなかつた先生方と紙面編集を通して、懐かしく再会(!?)した気分となり、編集中、思わずにやけてしまうことが何度もありました。現在、遠方にお住まいであったり、時間や日程の関係でなかなか総会研修会に参加することが難しい先生方も多くいらっしゃると思いますが、本記念誌を通じて当時の思い出や普段の臨床を振り返る機会としていただければ幸いです。またいつの日か、総会研修会でお会いできることを楽しみにしております！

(川端)

10周年記念委員として、研修会、記念誌と仕事をさせていただく中で、改めて本会の有りがたさを感じました。私にとって、臨床の場に出たあとも、1年に1度、自分の臨床の原点に戻り、懐かしい顔を見られる総会研修会という場があることは大きな支えになっています。公認心理師法案が成立し、心理士を取り巻く環境も激変することが予測されますが、今後も本会がさらに発展できるように微力ながら貢献したいと思っております。

(吉川)

◇監修：発行 : 関西大学臨床心理士会  
10周年記念事業委員会

◇印刷・製本 : (有)すばる印刷

◇平成28年12月発行